近世庶民教育資料から見た
源氏物語
双六・往来物を中心に

ごあいさつ

東京学芸大学は、明治6年に設立された東京府小学教則講習所、大正9年に設立された東京府立農業教員養成所などを前身とする 4 校の師範学校を統合して、昭和24 年 5 月に創立されました。附属図書館では、これら前身機関の蔵書を引き継ぐとともにコレクションの充実を図っています。これらの蔵書の中から、毎年秋の大学祭である小金井祭に合わせて所蔵資料の展示会を行っていますが、今年度は、本学人文社会科学系の河添教授が常任委員を勤める「中古文学会」の秋季大会と開催期間を合わせた 10 月の展示会と 11 月の小金井祭の 2 回開催することといたしました。全体を通じて本学名誉教授の小町谷先生の監修と河添先生のご協力をいただいています。

今年は、源氏物語が世に出てから 1,000 年のいわゆる「源氏物語千年紀」にあたり、各地で関連の行事が行われています。本学附属図書館においても所蔵資料の中から源氏物語に関わる「往来物」を中心とした資料を選んで「近世庶民教育資料から見た源氏物語～双六・往来物を中心に～」と題した展示会とすることとしました。「往来物」とは、平安時代から明治時代初期にかけて作られた、手紙文の形式をとった教科書的な和装本のことを指します。特に江戸時代には寺子屋の教科書に使われていたといわれております。本学は、教員養成系の大学として教科書の源流ともいえる「往来物」の収集に力を入れております。こうした資料を通じて、本学の社会的役割の再認識をしていただければ幸いです。

これらの展示資料により、「往来物」という庶民の近世教育資料に表れた源氏物語の世界を垣間見ることができるのではないかと考えております。当時の庶民が源氏物語をどのように捉え、どのように教養として身に付けていったかということもうかがい知ることができるのではないでしょうか。

なお、東京学芸大学附属図書館では貴重な資料を多くの皆様に手軽にご覧いただけるように、資料のデジタル化にも取り組んでおり、今回展示される資料の一部を含む望月文庫及び双六コレクションの画像データベースをインターネットで公開しています。附属図書館のホームページ（http://library.u-gakugei.ac.jp/）から是非ご覧ください。

東京学芸大学副学長・附属図書館長
出　口　利　定